

報道関係者 各位

2013年8月19日
国立大学法人 東京農工大学

文部科学省科学研究費補助金新学術領域研究 「東アジアにおけるエアロゾルの植物・人間系へのインパクト」 —研究成果報告会（10月23日（水））—

国立大学法人東京農工大学大学院農学研究院物質循環環境科学部門の畠山史郎教授が文部科学省新学術領域研究「東アジアにおけるエアロゾルの植物・人間系へのインパクト」（研究領域代表：畠山史郎、平成20年度～24年度）の研究成果報告会を開催します。

本年1～3月に大きな話題となった、東アジアから運ばれてきたPM2.5や黄砂などのエアロゾル（粒子状物質）について、その分布や輸送、粒子状物質の発生機構や除去技術、越境大気汚染粒子の輸送と分布、粒子状物質の植物や人間の健康に対する影響など幅広い分野の研究成果が報告されます。

一般向けの研究成果報告会ですので、報道関係の皆様方におかれましても、広くご参加いただければ幸いです。

- ◆ 日時：平成25年10月23日（水）9:30～18:00
- ◆ 会場：府中グリーンプラザ5F大会議室
- ◆ 交通：京王線府中駅北口徒歩1分（<http://www.fuchu-cpf.or.jp/green/access/index.html>）
- ◆ 参加費：無料
- ◆ 参加申込締切 10月15日（火）
- ◆ 参加申込方法：以下にメールにて、氏名、所属、メールアドレスをお知らせ下さい。
- ◆ 申込先/問合せ先：183-8509 府中市幸町3-5-8 東京農工大学 畠山史郎
E-mail: tuat.aerosol@gmail.com <http://www.tuat.ac.jp/~aerosol/>

研究体制：東アジア諸国の経済発展に伴って、そこから放出される大気汚染物質の量も増加しています。特に中国における大気汚染悪化は深刻で、本年1月～3月に見られたPM2.5問題は我が国への影響が大きく懸念されたところです。黄砂やスギ花粉なども相まって大きな関心事となりました。このような、東アジアから輸送されてくるPM2.5などの微小粒子状物質に焦点を当て、文部科学省新学術領域研究「東アジアにおけるエアロゾルの植物・人間系へのインパクト」では、生成プロセスや、輸送・分布・変質・沈着の各過程の研究、植物や人間の健康への影響などを、研究者総数約200名、研究費総額約13億円の大型プロジェクトとして研究してきました。

報告内容：本プロジェクトは4つの研究項目からなり、それぞれ、エアロゾルの生成と排出源の評価、東アジアのエアロゾル・大気汚染物質の輸送と広域分布の解明、エアロゾルの植物影響の解明、エアロゾルの健康影響の解明、をテーマに研究を進めました。4研究項目から各5件の発表を行い、PM2.5などを含む大気中の粒子状物質の生成、輸送、変質、沈着の各プロセスや植物及び人間の健康への影響をわかりやすく説明します。

※ 参加者には領域で発行する成果報告総説集を後日無料配付します

◆研究に関する問い合わせ◆

東京農工大学大学院農学研究院 物質循環環境科学部門
教授 畠山 史郎（はたけやま しろろう）

TEL/FAX：042-367-5620